

【樹木の部屋】

ナンテン（メギ科ナンテン属 *Nandina domestica*）

和名：ナンテン（南天） **別名**：ナルテン（成天） **英名**：heavenly bamboo

キンポウゲ目 常緑低木

原産地：中国

花言葉：私の愛は増すばかり、機知に富む、福をなす、よい家庭

花色：白、黄、赤



← 写真-1 ナンテン

撮影日：2019年06月04日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 ナンテンの花と蕾

撮影日：2019年06月04日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ナンテンの花

撮影日：2019年06月04日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

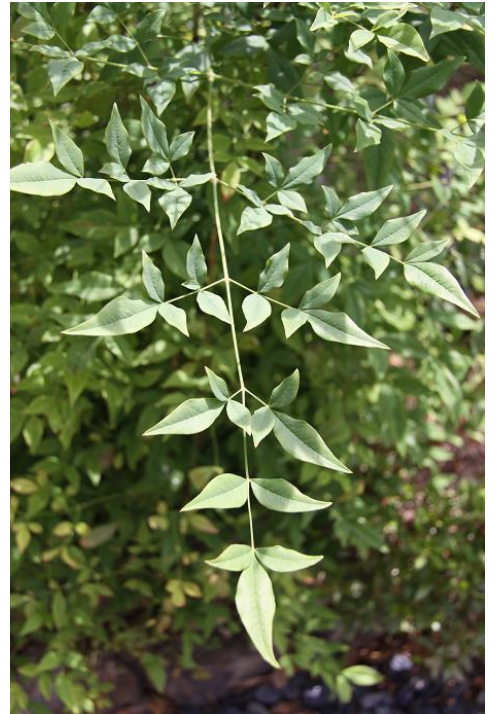
撮影者：M さん

→ 写真-4 ナンテンの葉

撮影日：2019年06月04日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



←↓ 写真-5、6 ナンテンの実

撮影日：2020年11月07日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



殆どの庭で見かける、ポピュラーな植物です。植栽した記憶が無くても、鳥によって運ばれたタネによってアチラコチラで・・・。

縁起物の植物として、昔から音が「難転」即ち「難を転ずる」に通ずることから、縁起木、厄よけ、魔よけとして、鬼門または裏鬼門に植えると良いなどという俗信があります。福寿草とセットで、「災い転じて福となす」ともいわれています。

和名の由来は、漢名の「南天燭」の略だそうで、南天の花は、仲夏の季語。実は三冬の季語です。

高さは2m位、高いもので4～5mほど。幹の先端にだけ葉が集まって付き、葉は互生し、三回羽状複葉。小葉は広披針形で先端が少し突きだし、革質で深い緑色、やや艶があります。先端の葉の間から、花序を上へ伸ばし、初夏に白い花が咲き、晩秋から初冬にかけて赤色(まれに白色)の小球形の果実をつけます。

ナンテンは、1712年にケンペル(E. Kaempfer)によってヨーロッパへ紹介されたそうです。

漢方では、乾燥させた果実を南天実(なんてんじつ)といい、咳止め剤(鎮咳剤)として利用されています。また、葉には殺菌・防腐の作用があり、乾燥させてお茶と

して飲むことで、ものもらいや血尿に効果があるといわれています。さらに、樹皮・根皮は胃腸病・眼病に効果的で、昔から薬用の木として重宝されてきたそうですが、葉には有毒成分となるアルカロイドが含まれています。特に咳を鎮める作用があるドメスチンというアルカロイドは、多量に摂取すると知覚や運動神経の麻痺を引き起こす恐れがあるので医学的知識のない方が安易に扱うのは危険、要注意です。ナンテンの葉が赤飯などの料理に添えられるのは、防腐作用があるため。

庇まで伸びると、お金が貯まるという言い伝えもあるそうです。

<ちょっと一言>

* 仲夏（ちゅうか）

夏三か月の中の月。陰暦五月の異名。陽暦で六月ごろ。

* 三冬（みふゆ）

初冬・仲冬・晩冬の3か月。陰暦の10・11・12月。陽暦ではだいたい十二月・一月・二月、天文学上は冬至から春分までの期間。

* 山口県萩市川上の「川上のユズおよびナンテン自生地」は、国の天然記念物（1941年指定）です。

* 園芸種のオタフクナンテンは葉が紅葉しやすく真夏でも赤い葉を付けます。実がつかないのが特徴で、高さも50cm程度しか伸びないので、下草などと一緒に庭園によく使用され、葉がやや円形なので別名オカメナンテンとも呼ばれています。